

総務委員会 追加資料

所管事務の調査（報告）

令和2年度 公益財団法人 川崎市産業振興財団「経営改善
及び連携・活用に関する取組評価」について

別 紙 1 クラスター運営事業の詳細について

別 紙 2 かわさき起業家オーディション受賞企業の市内立地状況及
びアフターフォローについて

経 済 労 働 局

(1) キングスカイフロントのこれまでの運営

- ①キングスカイフロントネットワーク協議会(立地機関が主体となり、平成30(2018)年2月設立)が中心となって、**エリアマネジメント機能**(=産学公民が交流・連携し、魅力的なまちづくりや操業環境の向上を図ること)を担う。
- ②リサーチコンプレックス推進プログラムの採択を受け、慶應義塾と川崎市(川崎市産業振興財団を含む)が**クラスター化推進機能**(=研究・事業活動の活性化を図ること)を担う。

(2) 今後の取組

- ①リサーチコンプレックス推進プログラムの終了(令和元(2019)年度まで)を受けて、継続的にクラスター化推進機能を実施する体制の構築
⇒ キングスカイフロントにおける**クラスター化推進機能の整備・強化を図る**
- ②リサーチコンプレックス推進プログラム終了後、クラスター化推進展開のための競争的資金の獲得
⇒ 文部科学省所管の「共創の場形成支援」など、**新たな国支援プログラムの獲得を図る**

エリアマネジメント機能とクラスター化推進機能を両輪とした**クラスター運営**(*)を実施

(*)企業、大学、研究機関、自治体等が集積し、研究活動、事業化支援、人材育成等を通じて相互に連携・共創することで、地域に新たな付加価値を創出するまちづくり



公益財団法人川崎市産業振興財団を中心とした体制がクラスター化推進機能を担いながら、川崎市産業振興財団が主体となって、キングスカイフロントのクラスター運営を展開する。

(1) クラスター運営における主な取組事項

- ①クラスター化推進機能
 - a. **企画調整機能** (競争的・民間資金の獲得、キングスカイフロント立地企業間調整 等)
 - b. **窓口機能** (視察対応、キングスカイフロント立地企業と市内研究開発拠点とのマッチング 等)
 - c. **広域連携** (LINK-J(日本橋)、Bio-M(ドイツ)等の国内外の拠点との相互連携 等)
 - d. **事業化支援** (サイエンスカフェ、金融機関との連携・交流 等)
 - e. **広報機能** (拠点のプロモーション(出版物、展示会) 等)

川崎市産業振興財団が川崎市と協働して実施、新たな国支援プログラムの獲得を図るとともに、川崎市は事業費及び体制面での支援を行う。

- ②エリアマネジメント機能
 - a. キングスカイフロントネットワーク協議会の事務局 (域内のイベントや交流会の企画・開催) など
この業務は、キングスカイフロントマネジメントセンターが担当する。

組織体制

川崎市産業振興財団

殿町キングスカイフロント クラスター事業部 ※新設

令和2年4月



《専門員ライン》 ◎オーガナイザー 土屋 裕弘

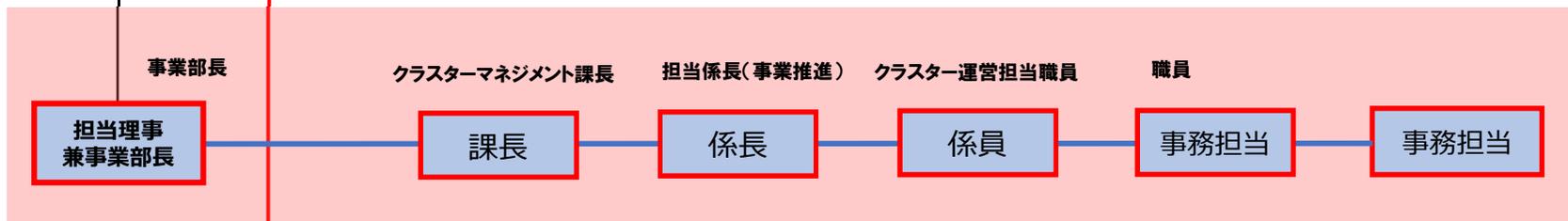
- ・薬学博士
- ・元田辺三菱製薬株式会社代表取締役社長及び会長
- ・近畿化学協会会長、関西医薬品協会会長等歴任
- ・現在は、住友電気工業株式会社取締役、京都大学イノベーションキャピタル株式会社取締役等



土屋 裕弘
(つちやみちひろ)

オーガナイザー補佐 イノベーションプロデューサー 河野 裕 	イノベーションプロデューサー 松川 泰久 	イノベーションマネージャー (クラスター推進機能) 高橋 巨 
医学博士。大手製薬企業で国際臨床開発PJリーダーを担当、米国NIHに招聘研究員として留学、大阪府ライフサイエンス産業課参事等を経て現職。大阪大学招聘教授、海外とのMOU締結コア実績等有り。	薬学博士。大手製薬企業の再生医療ユニット、製造、アライアンス業務に従事、米・南カリフォルニア大、英・ケンブリッジ大学に留学、ベンチャー設立サポート実績有り。	大手総合化学メーカーで合成化学研究部長、知的財産部長、研究推進部長を経て2017年からiCONM勤務、医薬品研究のマネジメント、知財戦略、アライアンスが強み。

《事務ライン》



令和2年度川崎市産業振興財団クラスター運営事業について

事業概要		令和2年度実績
1 クラスター運営並びにキングスカイフロント及びその周辺地域におけるエコシステムの形成に必要な企画・調整に関する事業		
(1) クラスター運営会議の事務局	殿町国際戦略拠点キングスカイフロント及びその周辺地域におけるライフサイエンス領域を中心としたクラスター運営を実施するにあたり、立地機関や関係機関と円滑な運営について協議するため、クラスター運営会議を設置し、年2回程度開催する。	<p>【クラスター運営会議委員】 実験動物中央研究所、国立医薬品食品衛生研究所、慶應義塾、ナノ医療イノベーションセンター、ペプチドリーム、島津製作所、J&J、日本メドトロニック、大和ハウス工業、川崎市、神奈川県、川崎市産業振興財団</p> <p>・令和2年8月、第1回開催 会議の発足、キングスカイフロントクラスター運営機能にかかる方針および主な取組が承認 ・令和3年3月、第2回開催（オンライン） ①現状の取組紹介、②新型コロナウイルス状況下における交流や連携の促進、③拠点間連携に期待するもの、④効果的な情報の発信等について、意見交換を実施。</p>
(2) 競争的資金・民間資金の獲得	リサーチコンプレックス推進プログラムの後継や、革新的なイノベーションの成果創出に向けた国の複合的支援プログラム、金融機関による出資等、拠点形成の推進に資する新たな資金を獲得するため、国との密な情報交換や支援制度創設の働きかけ、国への提案内容の立案、金融機関との交流といった活動を行う。	<p>【競争的資金】 ・経済産業省「令和2年度産学融合拠点創出事業 産学融合先導モデル拠点創出プログラム」及び「令和3年度同プログラム」に代表幹事機関として提案申請。ともに不採択。 ・JST「令和2年度共創の場形成支援プログラム」に学校法人慶應義塾が中核機関として提案申請を行った。財団は参画機関として参加した。不採択。</p> <p>【金融機関との連携】 ア) きらぼし銀行と首都圏内企業への共同ヒアリング イ) 三井住友銀行等と「大田区・川崎市 オンライン連携イベント」開催 ウ) 商工中金とキングスカイフロント立地機関への共同ヒアリング実施。 エ) はまぎん産業文化振興財団による助成金事業「はまぎん財団 Frontiers」の広報、企業の推薦。</p>
(3) キングスカイフロントのエコシステム間の調整、情報共有	キングスカイフロントに存する国支援プログラムにより構築されたイノベーション・エコシステムや、立地機関による個別のプロジェクトを連携させるため、定期的な研究発表会や情報交換会といった調整の場を設置し、域内からの高い経済効果の創出を目指した活動を行う。	キングスカイフロントネットワーク協議会に参画、エリアの活性化と周辺地域との交流促進に向けて定期的な意見交換会を行うとともに、クイズスタンプラリーなどの共同イベントを通してエリアのPRを行った。
(4) データベース構築 (立地企業紹介パンフ)	キングスカイフロントの拠点価値向上に向けた、地域の一体的なプロモーションや立地機関の情報発信、立地機関同士の域内での研究・事業活動の相互理解、域内外の企業・研究機関・アカデミアとの連携を目的として、立地機関の研究・事業活動の概要をわかりやすく取りまとめたPR媒体を作成する。 年に1回程度、情報をアップデートして発行する。	域内外の企業・研究機関・アカデミアとの連携を目的として、立地機関の研究・事業活動の概要を取りまとめたPR媒体を作成した。 日本語・英語 合計2,500部 41社掲載
2 キングスカイフロント及びその周辺地域の外部の機関等との窓口に関する事業		
(1) 視察対応、立地機関紹介	拠点間連携につながる視察の受け入れや、オープンイノベーションの創出に向けた価値向上に資するプロモーション活動を行うため、異分野融合研究に関わる新たな案件や、拠点間連携・ビジネス連携等が期待される視察対応や立地機関紹介を行う。	拠点間連携につながる視察の受け入れや、オープンイノベーションの創出に向けた価値向上に資するプロモーション活動を効果的に行うため、異分野融合研究に関わる新たな案件や、拠点間連携・ビジネス連携等が期待される視察対応を9件実施。
(2) 市内企業とのネットワーキング、ビジネスマッチング	キングスカイフロント立地機関をはじめとする市内のライフサイエンス企業、大学、研究機関等を対象に研究・事業活動上のニーズを把握し、市内企業等のシーズとのマッチング支援を通じて、イノベーション創出に向けた拠点活動の活性化を図り、キングスカイフロントの拠点形成に伴う市内産業への波及を促進する。	<p>・ヒアリング調査（ニーズ・マッチング等） 計44件 ・マッチング実績 41件 ・成果 2件</p> <p>① Medicen Paris Region（メディセン・パリ）とMOUを締結。（令和3年2月報道発表） ② キングスカイフロント立地機関、川崎市内企業、つくば市の国機関による新規事業として共同研究開発を開始。</p>

令和2年度川崎市産業振興財団クラスター運営事業について

事業概要		令和2年度実績
3 国内外のクラスター等との連携に関する事業		
国内クラスター、海外クラスターとの拠点間連携	国内外のバイオ・ライフサイエンスを中核とした産業拠点、ビジネス拠点との連携を推進する。双方の地域における企業・研究機関間の橋渡しを行い、連携することによる国際的なイノベーション創出を目指す。	国内外のバイオ・ライフサイエンスを中核とした産業拠点、ビジネス拠点との意見交換を行うとともに、協働・連携した事業を実施 【国内】大田区、横浜市、つくば市、LINK-J、聖マリアンナ医科大学、日本大学等 【海外】Medicen Paris Region (パリ)、BioM (ミュンヘン) 【国際展示会】BIO Digital 2020、BIO-Europe Spring 2021
4 キングスカイフロント及びその周辺地域の広報に関する事業		
(1) キングスカイフロントのプロモーション (出版物、展示会)	キングスカイフロント拠点紹介パンフレットの発行	域内外の企業・研究機関・アカデミアとの連携を目的として、立地機関の研究・事業活動の概要を取りまとめたPR媒体を作成した。 日本語・英語 合計2,500部 41社掲載 (再掲)
	i-Newsletterの配信 キングスカイフロントの最新動向や研究成果を、主に海外の企業や大学、研究機関等の研究者や科学系ジャーナリストに向けて配信し、企業や大学、研究機関等との連携促進、幅広いネットワーク構築に主眼を置いたプロモーション活動	キングスカイフロント立地機関の研究者を特集したビデオインタビュー等、i-Newsletterの配信を2回実施
	アジア最大級のバイオ系国際展示会BioJapanへの出展	「横浜・川崎パビリオン」を木原財団、横浜市および財団にて共同運営・出展。キングスカイフロント立地企業を紹介するとともに、他の機関、企業、アカデミアとのマッチングを実施。
(2) 成果の発表セミナー、ワークショップの開催	企業・研究者間の情報交換、異分野融合研究の促進に向けて、研究成果の普及とキングスカイフロントのブランド価値向上を図る場としての成果発表セミナーを開催する。	・キングスカイフロントネットワーク協議会交流連携部会にて、交流ツール「BuddyUp!」体験会を実施し、キングスカイフロント立地機関の情報交換や異分野交流促進を行った。 ・K-NICにて「胃がん内視鏡検診におけるAIの関わりと国際展開」(NEDO助成事業)〜ヘルスケアスタートアップの現場から〜と題し、研究成果の普及を行った。
5 キングスカイフロント及びその周辺地域に関連する研究成果等の事業化支援に関する事業		
(1) ビジネス研究会、サイエンスカフェの開催	イベントの企画から募集・運営までを担い、年間9回程度開催する。	・サイエンスカフェ(殿町カフェ)をオンライン開催。 8回開催 参加者総数293名 ・川崎市内中小ものづくり企業4社とキングスカイフロント立地機関によるピッチイベントを開催。 ・地域イノベーション・エコシステム形成プログラム「中分子創薬に関わる次世代産業研究会」開催協力。
(2) ベンチャーキャピタル、金融機関との連携、ピッチイベントの開催	スタートアップ企業、それらを支援するベンチャーキャピタルを域内に呼び込み、新陳代謝を促進するために、ピッチイベントを開催する。	【金融機関との連携】 ア) きらぼし銀行と首都圏内企業への共同ヒアリング イ) 三井住友銀行等と「大田区・川崎市 オンライン連携イベント」開催 ウ) 商工中金とキングスカイフロント立地機関への共同ヒアリング実施。 エ) はまぎん産業文化振興財団による助成金事業「はまぎん財団 Frontiers」の広報、企業の推薦。(再掲)
(3) 投資銀行、ベンチャーキャピタル、エンジェル投資家等への紹介	域内の研究成果などから、新たに起業を考えている研究者などに対して、VCなどを紹介することにより、資金確保の支援を行う。	新たに起業を考えている研究者などに対しVCなどを紹介することにより、資金確保の支援を実施。

**令和元年度及び令和2年度に実施したかわさき起業家オーディション
受賞企業の市内立地状況及びアフターフォローについて**

1 オーディション受賞企業の開催状況及び市内立地状況

(1) 開催状況

- ア 令和元年度 3回開催（第119回～121回※122回はコロナ禍により中止）
受賞企業者数 14社
- イ 令和2年度 4回開催（第123回～126回）
受賞企業者数 16社

(2) 市内立地状況

	申請時	申請後の変動		現在
	市内立地企業数	市外転出企業数	市内転入企業数※	市内立地企業数
令和元年度	3	- 1	+ 1	3
令和2年度	3	0	+ 2	5

※市内転入には新規事業所開設を含む。

2 オーディションのアフターフォローに係る取組について

(1) 概要

かわさき起業家オーディションは平成30年度まで年間6回の開催としており、主に申請者の確保に向けた周知活動や、申請者に対する、申請時から最終発表会に至るまでのビジネスモデルのブラッシュアップ支援に注力していた。令和元年度からは、受賞者に対するアフターフォローの充実に必要な産業振興財団職員の対応時間を確保するため、年間4回の開催へと変更した。

(2) アフターフォローの具体的な取組

ア 基調講演での登壇機会の提供

平成30年度までは、オーディション当日の基調講演として、ベンチャー業界の著名人による講演をしてもらっていたが、令和元年度からは、「活躍する受賞企業」と題し、過去にオーディションで受賞した方に登壇してもらっている。

過去受賞者に対しては、オーディションに参加する投資家等の協賛企業や、聴講者に対する自社のビジネスのPRの機会提供となり、新規の受賞者に対しては、オーディションの先輩受賞者の受賞後の成長を知ってもらうことで、自らの成長をイメージするとともに、今後の相談相手となる先輩起業家との交流の場の提供となる。

- 令和元年度登壇者 6名
- 令和2年度登壇者 6名

イ 受賞企業紹介冊子の作成

オーディションに登壇した企業を紹介する冊子を年に1回作成し、受賞企業の自社PRや、財団のマッチング、オーディション事業の外部への紹介等に活用した。(令和元年度から)

ウ OB交流会の開催

オーディション過去受賞企業の交流を目的とした、OB交流会を開催した。

令和元年度 リアル開催を検討していたが、コロナ禍により中止。

令和2年度 オンライン開催

エ メディアを活用した受賞企業の紹介

(ア) 神奈川新聞ビジネスウェブ欄における受賞企業紹介

令和元年度分 3件

令和2年度分 4件

(イ) 日刊工業新聞における受賞企業紹介

令和元年度分 1件

令和2年度分 2件

(ウ) 東京新聞における受賞企業紹介

令和2年度分 2件

(エ) 産業情報かわさきにおける受賞企業紹介

令和元年度分 7件

令和2年度分 6件

オ 協賛企業等とのビジネスマッチング

令和元年度分 資金調達1件 その他マッチング10件

令和2年度分 資金調達1件 その他マッチング9件